

## 令和4年度 入学式式辞

厳しい冬が過ぎ、春の訪れを感じる本日ここに、御来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、令和4年度入学式を挙行できることは、本校にとってこの上ない喜びであり、心よりお礼申し上げます。

ただ今名前を呼ばれました158名の皆さんの入学を、在校生及び教職員一同、心から歓迎します。

さて、私が新入生の皆さんにこの場でお伝えしたいのは一つだけです。

「高校に入学したら、自分の殻を破ってください。」みなさんには生まれてから中学校3年生までの間で、自分の中で作ってきた限界があるのだと思います。「自分は勉強ができない」と思っている人。勉強ができないのではなく、勉強の仕方を知らなかっただけです。勉強も部活動も友人関係も家族関係もこれからいくらかでも変化して行きます。「自分にはできない」「自分はこんな人間だ」と決めつけるのはやめてください。皆さんたちが勝手に限界を決めていただけです。

新しい生命が誕生するのは、卵が内側から雛のクチバシで壊される時です。外から壊せば、命は失われます。大切なことは「自分で」内側から殻を破るということです。我々大人が無理矢理外から殻を破ることはできないのです。

もう一度言います。自分で勝手に限界を決めず、勉強でも部活動でも人間関係でも新しい自分に挑戦してください。それができるのが高校です。待っていても誰もあなたを変えてはくれません。これから始まる高校生活で、助けを借りても、時間がかかっても、失敗してもいいので、自分の力で自分の意志で殻を破り、自分を成長させてください。大湊高校の教員は皆さんたちに外の世界の素晴らしさを伝え、殻を破る勇気を与え続け、自分の力で殻を破る皆さんを見守っていきます。

世界的な感染症はいまだ終息の糸口が見えません。ウクライナでは世界が戦後築いてきたはずの平和や民主主義がいつも簡単に壊されようとしています。世界は今かつてないほど困難な状況にあります。それでも、歴史の中で、人類は幾たびも感染症を克服してきたことも事実です。時間がかかっても私たちは、必ずこの感染症と共存する未来を見つけるはずです。そして、戦争の暴挙の中でも国を超えた人々の助け合いの輪は静かに広がっています。現実には厳しいですし、これからの世界は予測困難で不透明です。けれども、我々が諦めなければ、必ず希望はあるのだと思います。

3年間、真摯に学び、挑戦し、自分の存在意義を見つけ、混迷する社会を希望を持って強くしなやかに生き抜く人になってください。

新入生の皆さん。改めて入学おめでとうございます。大湊高校は皆さんに様々な選択と挑戦の場を提供します。失敗を許容し、教職員は皆さんとともに歩みます。皆さんの3年間で実り多いものであることを心から願って令和4年度入学式の式辞といたします。

令和4年4月7日 青森県立大湊高等学校 校長 千葉栄美